



会からのお知らせ

○ 12月 定例役員会

日時 平成22年12月4日(土) 13:00～14:30
場所 サンプルネ・コンベンションホール
15時から第70回雑学講座として映画会を行います。

○ 第70回雑学講座

日時 : 平成22年12月4日(土) 15:00～17:30
場所 : サンプルネ コンベンションホール (東村山駅西口駅ビル2F)
演目 : 映画 「若草物語」

昭和24年に制作され、アカデミー賞2部門受賞の名作。
アメリカ北東部の町コンコード、南北戦争に出兵した父を待つ、母と4姉妹の物語。
戦争の中にあっても、逞しく素直に生きる家族の暖かさに胸を打たれます。
若き日のエリザベス・テラーが何と美しいことか！

平成11年1月9日に第1回を開催した雑学講座も回を重ね、今回が第70回になります。「開かれた稲門会」を目標に、最近の雑学講座には多くの市民の方にも参加いただいております。今回初めて映画鑑賞会を企画しました。会員の皆様、是非不朽の名作「若草物語」をご覧いただきたく、ご家族揃ってサンプルネ コンベンションホールにお出でください。

○ 名簿の訂正

小永井哲哉さん 電話番号訂正 新 042-392-1365

○ 退会

北条 進さん (萩山町2丁目) 10月末で退会

○ 他稲門会総会等

11月6日(土) 立川稲門会 17時 立川グランドホテル 小亀会長 出席
11月13日(土) 小金井稲門会 13時30分 小金井商工会館 小亀会長 出席
同 三多摩支部大会準備会 17時30分 清瀬アミュホール
小亀・風間・當間・當摩・高橋(正)・岡田 出席
11月17日(水) 17時 三多摩支部大会資料印刷 東久留米西部地域センター
小亀・風間 出席
11月28日(日) 小平稲門会 14時 ルネ小平 小亀会長・當間副会長 出席

平成23年新春 新年会の日程が決まりました！

平成23年、稲門会スタートのイベント 新年会の日程が決まりました。
会場は、昨年と同じ「サンプルネ」のコンベンションホール。

12月号のニュースに詳しい御案内と出欠の葉書を同封します。

(出欠の返事は12月末日迄)

皆様、是非予定に入れて御参加ください。

記

日時 平成23年1月22日(土) 午後5時より(予定)
場所 サンプルネ コンベンションホール
(東村山駅西口 再開発ビル2階)
会費 5,000円

☆第45回ホームカミングデー・校友会設立125周年記念式典開催

10月17日（日）第45回ホームカミングデー及び校友会設立125周年記念式典が行われた。今年は卒業後25年・35年・45年・50年目の校友に加えて卒業後15年目の校友も招待された。白井総長・福田校友会代表幹事の挨拶の後、招待者を代表して（株）リコー社長の桜井正光氏の挨拶があった。また校友会功労者23名、早稲田四代卒業の16組の表彰があり、（当稲門会の吉村正さん〈人間科学部教授〉も表彰された。）さらに校友会稲魂賞特別賞として前全日本サッカー監督の岡田武史氏が表彰されました。

岡田氏はこういう厳しい時代こそ進取の精神（早稲田スピリッツ）を発揮してさまざまなことに挑戦していく人材を育てていくのが早稲田大学の使命であり、これが出来るのは早稲田しかない、と、大学への期待を述べられたのが印象的でした。午後は稲門祭が行われ、校友会が用意したえんじ色の紙製の角帽をかぶった多くの校友でキャンパスは大賑わいで、まさに早稲田の杜がえんじ色一色に染まった一日であった。稲門祭には奨学金記念品販売副本部長の大内さん、実行委員の高鷲・高橋（正）さんが早朝から参加され、大活躍されました。心から感謝申し上げます。（小亀記）

☆青梅稲門会 清水保男会長急逝

青梅稲門会会長清水保男氏（73歳）が10月14日大動脈瘤破裂により急逝されました。心からご冥福をお祈りいたします。なお、三多摩支部規約第14条により、当稲門会からもご香奠を差し上げました。

☆会員増強に皆様のお力をお貸し下さい！！

東村山稲門会も設立以来15年目を迎えました。多くの会員は設立当初から加入しており、若い人は殆ど加入せず、会が高齢化の一途をたどっています。このままでは、この組織は将来、成り立っていかなくなります。現在東村山市には約1200人の校友が住んでおり、4月に大学から名簿を頂きました。高鷲さんがこの名簿を町別に分かりやすく分類し、すでに入会している方を除いた冊子を作成して下さいました。今、この名簿を前にどのような方法で入会を呼びかけるか悩んでいます。全員に案内を郵送するとかかなりの金額がかかり、また過去の例から見てあまり効果は期待できません。

高齢社会を迎えている我が国は自殺者や孤独死する方が他の国より多く、寝たきりになる人や認知症や鬱病も多くなっています。このような状況の中で一方では「無縁社会」などとも言われています。また早稲田の卒業生は群れるのが嫌いで一匹狼的な人が多いとも言われてきました。しかし考えてみると、この高齢社会で生きていくうえで「早稲田」のもつ縁（えに）は大きいものがあると思います。「早稲田の杜」で学んだという共通の思い出をもつ私たちは、お互い懇親を深め、大学のこと、地域社会のことを共に考えていくことは、意義のあることだと思います。ひとりでも多くの校友が稲門会に入って頂くために何かアイデアがないでしょうか？ 皆さん是非考えてください。

（小亀記）

☆年会費並びに三多摩支部大会懇親会費のお支払いについて

東村山稲門会総会にご出席の方は年会費5000円を、三多摩支部の懇親会にも出席する方は懇親会費と合わせて1万円を総会受付でお支払い下さい。なお、懇親会費は11月17日までにキャンセルの通知がない場合は、後日お支払い頂くことになります。総会欠席者には12月のニュース配布時に年会費振り込み用紙を同封致しますので、年内にお支払い頂きますようお願い致します。

☆演劇博物館で 森繁久彌展 11月14日まで

映画に舞台、テレビにラジオと幅広く活躍した森繁久弥氏が、2009年11月に逝去されました。早稲田大学の校友でもあり、森繁と演劇博物館との親交は深く、数十年来続いています。本展では、これまでに寄贈いただいたコレクションを中心に。稀代の名優・森繁久弥の足跡と功労をたどります。なお、11月12日（金）には演劇講座＋上映会「サラリーマン忠臣蔵」行われます。小野記念講堂 入場無料

☆全生園 園内保育所実現へ

国立ハンセン病療養所「多摩全生園」（青葉町4丁目）の入所者が目指していた園内保育所設置が実現に向かって動き出した。保育所用地は、園内南角の2千平方メートル。現在竹藪で、今月19日から厚生労働省が整地を始める。整地が終わり次第、事業者を公募する。選ばれた事業者が建物をつくり、借地料を国に納めながら保育所を運営する。平屋建てでも150人は可能だという。早ければ12年に園内保育所が出来る事になる（10月12日朝日新聞参照）。



見違える構内 キャンパスツアー実施

午前中の定例会を終えた有志と希望者12名（下記）が、10月9日（土）午後2時半に大学正門に集合、雨の中でしたが、キャンパスツアーがスタートしました。

案内役は、国際教養学部4年の西田早希さん。学部1年の5月からガイドを始め、その経験が就活（JR東海に内定）に役立ったと言うだけあり、話振りと手際の良さは見事でした。（私が人事担当者であつたらまず一番に採用、人間性にすっかり惚れ込み、今日参加の有志で彼女の内定祝いをしたいという声まで聞かれました。）

まず向かったのは、演劇博物館。正面左手にある坪内逍遙博士の銅像の手が変色しているのは、訪れた受験生が握手をしたためと分かり、微笑ましいエピソードと感じました。次に14号館、平成10年竣工で社会科学部が入り、1～2階に窓を大きく取り省エネに配慮した設計、700名収容の大教室もあるとのこと。

続いて斎藤祐樹君も学んでいる教育学部の16号館、そしてその脇を通り17号館へ。ここにはミニスーパーともいえる生協が1階にあり、リクルートスーツ、早稲田グッズから食品（何とチキンカツ・ハンバーグ弁当が298円）まで扱い、数量の多さに驚かされました。参加者の多くが在籍した当時の生協とは隔世の感があり、時代の流れを強く感じた場所でした。10分間の休憩の後坂を下り、総工費109億、253万冊の蔵書を誇る、中央図書館へ。1日3,000人の利用者があり、早稲田の頭脳を磨く一大拠点ということが、肌で感じられました。

紅葉が遅いのか、まだ青々した木々のいちよう並木の構内に戻り、平成21年に竣工、商学部と国際教養学部の学ぶ11号館へ。14階建と学内では大隈記念タワーに次ぐ高さ。1階には旧商学部のエントランスが再現され、商学部で学んだ参加者は感激を新たにしました。続いて8号館では、11月の三多摩支部の総会の会場を確認し、大隈侯の銅像の脇を通り最後の目的地の大隈講堂へ。創立125周年記念事業として、内外装とも装いを一新、地上5階にあるとされる時計台にも行き、約2時間のツアーは終了しました。

その後、大隈記念タワーで一休み。大学から本多理事もお見えになり、活発な意見交換がなされました。

参加者の皆さん、「心のふるさと」を十分実感されたでしょうか。

（當間昭治 記）

参加者 青山・石塚・江藤・小亀・高橋正夫・滝川桜子・高部・當摩彰子・當間・長井・南湖・町田

キャンパスツアーに参加して

昭和48年商学部卒の私であるが、10月9日、土曜日に開催されたキャンパスツアーに参加し、37年ぶりに“早稲田の杜”を散策した。現役当時のキャンパスライフは学生運動のやからに翻弄され、六大学野球でも1度も優勝を味わうことができなかった、まさに失われた4年間であった。このためか今までこのキャンパスに足を向けることは無かった。

平和な時代となった今、当時占拠されコンクリートを詰め込まれた哀れな大隈講堂はものの見事に復活し、キャンパスを見守るようにその威容を誇示していた。感激のあまり、息を切らしながらも時計塔まで登った。

この日は土曜日であいにく小雨が落ちていたが、思いのほかキャンパス内を往来する人の多さにびっくりした。もちろん学生たちがいるのは当然だが、それ以外にも思い思いに散策する人たちであった。

私と愛妻が結婚式を挙げた大隈会館は今は無く、当時の安倍球場も図書館などに変わりちょっと寂しい感があった。しかし、球場跡に建つ大学図書館は、すばらしいものであった。当時は閉架式で私はあまり利用しなかったが、新図書館は開架式となっていて、多数の学生たちが様々なかたちで利用していた。私がロックアウトの合間に学んだ商学部の11号館も、それはそれはりっぱに建て変わっていた。今の学生たちはこのような環境で勉学でき恵まれている。旧11号館の地下には私たちの部室があり、隣室が“核マル”の拠点の1つになっていたことを思い出した。

今日見て回ったキャンパス内は早稲田の理想に近いと思う。後輩たちがこの理想郷で学問に励むことを期待したい。私も失われた4年間を取り戻すべくこれから東村山稲門会で充実した楽しい思い出を作っていきたいと思う。

最後にツアーガイドの女子学生に感謝感謝である。大変愛嬌があり、明るく好感が持て説明も分かり易かった。2時間ほどではあったがいろいろお世話になった。4年生で既に大手企業へ就職が決定しているという。この就職氷河期にあって、これぞ早稲田の底力だ。

（南湖修一 記）



音痴の小唄修行

久世利夫（S 2 2 政経）

小生の部屋の隅に古い三味線がポツンと置かれている。十年近く放置されたままで無残な姿をさらしている。

リタイアして五年も経つと家でごろごろしている日が多くなり、家内としては迷惑な話。何かしなさいと毎日責められて。いろいろ言い訳している内に業を煮やして家内が決めて来たのは小唄の稽古。家内の母親は春日派の師範で弟子も老年のせいではほとんど取らないでいるから、みっちり仕込んでやろうというわけ。前々から稽古に来るように誘われていたが、生来音痴の小生には無理と断り続けていたが今回は逃げようが無かった。悪いことに二十年くらい前に長唄の稽古を勧められた時、邦楽をやるには三味線が先決だと稽古三味線だけは買ってしまっていた。手入れもしないで放ってあったから、皮は破れたまま。いつか義母がを見つけだして張り替えに出してくれたらしいのだが、それも破れて放りだしてあったのをまたまた張り替えてくれたとあっては、もはや逃れる術はない。かくて六十五歳にして小唄と三味線の修行が始まった。さで観念して始めた稽古だが、義母対娘婿の関係が師弟関係に変わってしまったから、どうにも勝手が悪い。先方も師匠としていい加減な妥協を許さない。第一日目は「梅は咲いたか」の唄から始まる。誰でも知っている唄も正規に小唄として習うと酔っ払った時のようにはいかない。神妙な一年生として恥も外聞もなく声を張り上げて頑張る老弟子を良い声ですよ、小唄に向いてますなどと言って励ましてくれる。

一週間に二回といっても苦手な稽古日はすぐ来てしまう。二回目も家を出る時は気が重い。適当な言い訳がないから出かける。家内と義母は毎回電話で長話をしているからサボるわけにはいかない。サボれないとなれば、破れかぶれでやるしかない。義母が病気で寝込むか小生がひっくり返るかしない限り稽古は永遠に続く。世間話を多くして稽古の時間をすこしでも短くしようとたくらむが先方は乗ってこない。さて三味線を習いだしてみると自分の指が如何に不器用で動きが悪いのを改めて知らされる。やはり三味線は子供のときから始めないと無理のようだ。耳が悪い手先が不器用音感が悪いと三拍子揃っては如何ともしがたい。対座して向こう側で手本にみせてくれる義母の手馴れた器用な手の動きがつかみきれない。何回もおなじ箇所を繰り返してくれる義母に申し訳なく、こんな覚えの悪い弟子にめぐり合いた不運に同情する。長時間正座をするのも大変。時々待ったをして貰って痺れた足を投げ出して休憩しないとたない。三味線の調子合わせはむづかしい。家で練習するにも家人に合わせてもらわないとはじめられない。毎日同じ曲ばかり弾いていると少しは三味線らしくなるようだ。家内は小生がまた放り出したりしないように、時々褒める事を忘れないのは涙ぐましい。友達と酒を酌み交わす席で弾き語りで粋な唄を聞かせてやろうなどという野心も、生きているうちには実現しそうもない。続けていけば少しは上達するかとどうにか一年ぐらい頑張る。

義母が亡くなって九年が経つ。三味線は以来沈黙を続ける。使わないなら俺にくれと言う友達には来年の十周忌に仏前で追善演奏を済ませるから駄目だと交わしたが夢の話。

恵まれない気の毒な三味線。小生が死んだら一緒に焼いて貰えれば成仏するか？

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

ウォーキングの会

世話人 高橋正夫 TEL 309-3407
土橋雄次 393-5708



第22回のウォーキングの会は 前回雨天予報だったため参加者2名となったので同じコースを一部修正し、再度企画しました。当面の開催日は平日金曜といたします。

事前の申し込みは不要ですので、当日ご都合のつく方のご参加を歓迎します。

「東大構内散策と旧岩崎邸庭園から上野公園へ」

- 1) 日時 11月26日(金) 午前9時
- 2) 集合場所 所沢駅 池袋方面ホーム中ほど
- 3) 行程 池袋乗換え—後楽園駅—樋口—葉旧居—東大構内—
旧岩崎邸庭園—湯島天神—不忍池—上野公園—寛永寺—
鶯谷駅

午前11時からの旧岩崎邸のガイドツアーがお奨めです。
参加費無料。但し交通費、入園料、昼食、飲み物各自負担。当日雨天の場合は中止しますが、一応世話人に電話でご確認ください。

(高橋 記)

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



10月例会を10月8日開催。当初お休みの予定の所、是非開催を望む声が多く、9日を8日に変更し開催しました。

前の予定が無く時間はたっぷりあり、一人当たり6曲を熱唱又熱唱。楽しい一夜を過ごしました。年末の決戦に向け各自の駆け引きが熾烈となりました。

参加者：井手、井垣、滝川、高部、内藤の各氏5名。
今後の予定

- 11月6日(土) 19:10 からおけらんど ズー
12月4日(土) 19:10 からおけらんど ズー

12月は忘年会も兼ねます。多数の参加をお待ちいたします。

ゴルフ同好会

世話人 井垣 和太 TEL 04-2924-2934

2010年忘年ゴルフ会のご案内



暑い寒いのと言っている間に、もう来年が近づいてきました。あなたのゴルフではどんな2010年でしたか。

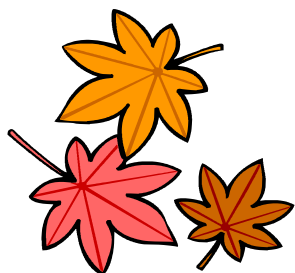
そこで、来たるべき2011年での一層のスコアアップを期するため、2010年忘年ゴルフを下記のように計画しました。埼玉の名門コースで思いっきり楽しみましょう。

参加申し込みは世話人まで宜しくお願いいたします。
記

開催日 12月3日(金)
コース 狭山ゴルフ・クラブ(入間市、東村山から50分)
時間 8:30~4組
費用 15,100円(昼食別、カート使用は別途料金)
申込み 11月10日締め切り、世話人まで
(参加者には別途詳細ご案内します。)

俳句同好会 (稲酔会)

世話人 井垣 和太 TEL 04-2924-2934



第52回「稲酔」俳句会 10月23日(土) 午後1時から恩多ふれあいセンター 第一集会室で開催されました。

出席者は、栗島三郎、井垣稲雀、出田麦穂、大西回生、風間和夫、幸田瑞雄、小永井哲哉、高部糸行、内藤 慎、丸本北窓の10名。

戸田 梶、八木竜湖、の投句参加も含めて12名の、兼題「虫」を含めた60句を、鑑賞、互選、合評して、午後5時の使用終了。時刻ぎりぎりまで和やかな中にも真剣な俳句の勉強を行いました。

60句の中から、各人が「これは」良い句だなと思った句を7句選ぶ互選で高点句には、

あと一步敗者の仰ぐ鰯雲

稲雀

が選ばれました。

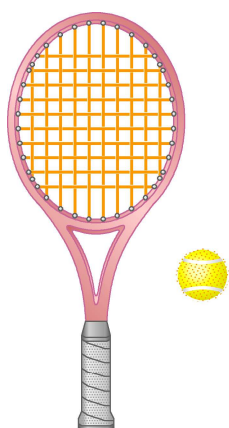
午後5時半からは、場所を久米川駅前「丸藤」に移して、さらに忌憚のない俳句談義を続け、秋の草むらの虫の音さながらに、にぎやかなひとときを過ごしました。

次回第53回は、12月25日(土) 恩多ふれあいセンター多目的室で午後1時から開催いたします。兼題は「手袋」です。ふるってご参加下さい。

(稲雀 記)

テニス同好会

世話人 田島 隆夫 TEL 396-7676



10月の例会は、10月16日(土)、久米川第3コートで行われました。スポーツの秋に相応しい好天に恵まれ、汗ばむほどでした。

参加者は、市川(彰)夫人、井手、小菅、高橋(一)、當間、野村(茂)の各氏と田島の7名でした。実力者がそろって、熱戦が展開され、常連の井手さん、市川さん、當間さんも大健闘でした。

予備日もとってあるので、希望者がいれば、月2回実施してはどうかという意見もありました。

今後の予定

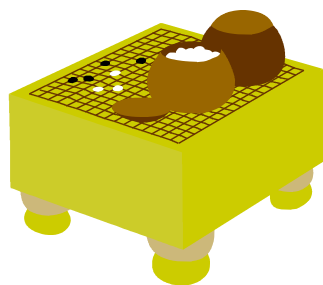
11月 6日(土) 9時～11時 運動公園 C

(予備日 11月20日(土) 9時～11時 運動公園 C)

12月18日(土) 9時～11時 久米川コート 3

(予備日 12月20日(月) 9時～11時 久米川コート 5)

囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 394-0593
高 鷲 近 394-2336

●「第21回秋季囲碁大会」が、10月16日(土)、市民センター別館第3会議室で開催されました。参加者13名、A、Bの二つのグループにわかれ、リーグ戦が行われました。その結果、Aグループでは久しぶりに野村さんが混戦を制し、Bグループでは田島さんが見事初優勝を飾りました。これにより田島さんは、6級に昇級されることになりました。

また、佐野さんが2勝をあげ、その健闘ぶりが目をひきました。みなさん、お疲れ様でした。

＜参加者／敬称略＞

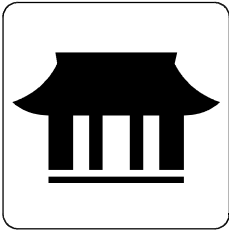
Aグループ…福田晃・鈴木・高鷲・野村・丸本・八木正晴

Bグループ…高橋鶴次郎・江藤・中川・一色・佐野・田島・杉山

○次回の「例会」は、12月18日(土)です。詳細につきましては次号の「ニュース」でお知らせします。

(高鷲 記)

郷土史の会

世話人 江藤昌明
伊藤友己TEL 391-4076
398-1352

9月26日(日)

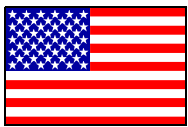
郷土史の会の9月の会合は、東村山の郷土史の中心とも言える廻田周辺の史跡の探訪を行いました。

廻田の古今を知り尽くし、「廻田の寺院と文化財」を纏め上げられました「峯薬師建設委員会」でもご活躍の江藤さんに、宝珠寺、光明院薬師堂、金山神社、廻田緑通、出羽三山碑、富田家法篋印塔、他国神社を詳しくご案内頂きました。

江藤さんのお宅で美味しいお団子を頂いた後、喜作さんでうどんを食べながら次回以降の打ち合わせをしました。

当日の参加者は、小林(伝)、滝川、戸田、當摩(彰)、町田、中村(真)、江藤、伊藤の8名でした。

(伊藤 記)



遣米使節目付小栗忠順の評価

小永井 哲哉 (S35教育)

万延元年は、アメリカ軍艦「ポーハタン号」と幕府軍艦「咸臨丸」がアメリカへ渡った年であり、今年はその150年目に当たる。

前者には日米修好通商条約本書交換のためワシントンへ派遣された遣米使節が、後者にはその随伴艦として長崎の海軍操練所で修学した草創期日本海軍の精鋭などが乗っていた。

去る9月25日、ゆかりのある横須賀において、この両者の子孫が一堂に会し、横須賀市・外務省・アメリカ海軍後援のもと、渡航150周年の記念式典を行った。

咸臨丸の生涯にかかわった者の子孫と作家や研究者たちで作る「咸臨丸子孫の会」という会があり、小生も曾祖父が幕府公用方として乗船渡航しているためこの会に入っているのだが、遣米使節一行の子孫の方々は特に集まりを持つということは差し控えているとのことで、お話しするのは初めてであった。

歴史的な意義からすれば、遣米使節の方がはるかに重要な仕事をなし遂げたのであり、ワシントンでのブキャナン大統領との謁見を始め、ワシントン市民との交流、民主主義との接触などその成果は大きい。

一方、咸臨丸の方は、日本人として初めて自力で太平洋を渡ったということに大きな意義があったことは確かだが、遣米使節の功績と比較することはできない。

この二組の遣米団が、以後の日本にもたらした影響は計り知れないが、更に特筆すべきは正使のナンバー3であった小栗忠順の、見聞を生かしたその後の活動であろう。小栗は帰国後直ちに横須賀製鉄所の建設を建議、これが後の浦賀ドックとなって海国日本の基礎を築いた。

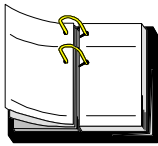
アメリカのポーハタン号に便乗し、オランダに作ってもらった咸臨丸を操船して渡米した日本海軍がその45年後に、あの日本海海戦を勝利した裏には小栗の的確な先見性があったのである。しかるに、この功績はあまり喧伝されていない。

咸臨丸が品川沖を出港したのは万延元年1月19日、ポーハタン号が横浜を出たのが同月22日。それからおよそ一月半後の3月3日に勃発したのが桜田門外の変である。

勅許を得ずに修好条約を調印したことと、紀州藩徳川家茂を次期将軍とすることを強引に押し切るために政敵一掃をはかった井伊大老の安政の大獄と、その反発で行われた為政者殺害というテロ。それが引き金となって、翌文久元年から攘夷派による無法な殺戮が頻発した。

本来栄光と称賛で迎えらるべき帰国者たちは、逆に夷狄の国へ遣いした者として迎えられ、決して居心地の良い環境ではなかった。

まして、小栗はその後幕閣として活躍したこともあって、新政府の追及を受け、裁判を受けることなく刑死させられた。そして、称えられるべき功績も決して正当な評価を与えられているとは言えないように思われる。



今月の行事（11月）

- 6日（土） 11月度役員会
11・12月度お誕生会
カラオケ同好会
9日（火） 園芸の会
21日（日） 東村山稲門会総会
26日（金） ウォーキングの会

12月（前半）の予定

- 3日（金） ゴルフ同好会
4日（土） 12月度役員会
雑学講座
カラオケ同好会
18日（土） テニス同好会
囲碁同好会



編集局だより

○前月号のニュースのこの欄に「会員の皆様へのお願い」と題し、小亀会長からのコメントがありました。「ニュースが長い間特定の方の負担により発行されている現状を何とかしたい。印刷の業務を誰か引き継いでいただけませんか。又は何かアイデアは？」というものでした。その後会員の方から、「個人の負担でのニュースの発行は限界がある。早急に外注での印刷を検討すべき」という意見が出され、地元秋津町の「コロニー印刷」と交渉。同社は母校の人間科学部と取引があり、好意的な条件で印刷を引き受けてくれました。コロニー印刷での発行は12月号からスタート。今までの一部カラーが白黒になりますが、コストは年間で2万円程度（今までのインク代と紙代の合計と比べて）の削減となります。

本件に関し、ご協力いただきました皆さまに感謝します。

（當間昭治 記）

○次号の原稿締め切りは11月19日（金）です。よろしくお願いいたします。（中村）

fax: 042-391-0581 email: mym-naka@u01.gate01.com

俳 壇

東の間に高齢者とや月天心 出田 麦穂
我が業か燃え立つばかり彼岸花 大西 回生
金木犀角を曲がりて在所知る 風間 和夫
赤とんぼ隣家の屋根の上で舞う
落武者の里に飛び交う赤蜻蛉 幸田 瑞雄
風に乗り気ままな旅路秋の蝶
屋敷林薄暮にすだく虫の声 菊田 一平
在りし日を木犀の香に想う宵
めでたさは豆名月の豆の青 小永井 哲哉
青い実を揺らして蜜柑の木の手下
赤とんぼ群る高原弥撒終る 高部 糸行
蠅螂は剣の間合いで立ちすくむ
秋の蚊の追えど車窓にしがみつ き
最乗寺六百年の杉の秋 戸田 梟
はにかんでじじに手を振る運動会
つつがなく渡り来たるや番鴨 内藤 慎
秋色の夕長く連れ添う影法師 丸本 北窓
秋色の迫りて降りる無人駅
岩肌に優しく触れて秋の川 八木 竜湖
黒茶碗深くすすりぬ風炉名残
大菊の鉢定むればしづこころ 栗島 三郎
斧かざす蠅螂の目にたじろげり
特別に言はず語らず敬老日
長き夜や古典落語にはまりをり 井垣 稻雀
あと一步敗者の仰ぐ鰯雲
鈴虫の生老病死甕の中